



平成28年1月19日

各位

上場会社名 株式会社 東京ソワール
代表者 代表取締役社長 村越 真二
(コード番号 8040)
問合せ先責任者 執行役員経営企画本部長 大島 和俊
(TEL 03-5474-6557)

通期業績予想の修正に関するお知らせ

平成27年7月21日に開示しました平成27年12月期(平成27年1月1日～平成27年12月31日)の業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

● 業績予想の修正について

平成27年12月期通期個別業績予想数値の修正(平成27年1月1日～平成27年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	17,600	△220	△100	△150	△8.16
今回修正予想(B)	17,107	△470	△341	△286	△15.60
増減額(B-A)	△493	△250	△241	△136	
増減率(%)	△2.8	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成26年12月期)	18,190	134	292	134	7.33

修正の理由

平成26年4月の消費税増税後には、その反動減もあって大きく売上高は低迷しました。増税後1年を経過した平成27年4月以降についても、婦人服業界における消費の冷え込みは依然として継続し、当社の主力取引先である百貨店販路及び量販店販路におけるブラックフォーマルの販売額は目標を下回りました。また、一部の販売先からの取引条件切り換え要請で、売上高の計上時期を当社販売時点から小売販売時点へと変更することに伴う一時的な売上高の減少、ならびに第3四半期以降の収益性の低いブランドの再編や低効率店舗の店頭在庫削減により、返品が増加したことから、売上高は予想を下回りました。

利益面では、あらゆる経費の削減に努め、販売費及び一般管理費においては、販促費の費用対効果による見極めや在庫削減で物流コストを抑えるなど、目標を上回る節減をおこないましたが、円安に伴う海外縫製工賃のアップならびにブランドの再編に伴う棚卸資産の評価替えが増加したことから、粗利率も予想を下回り、営業利益、経常利益及び当期純利益のいずれも予想を下回る見込みとなりました。

(注)本資料に記載されている業績見通し等に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいているものであり、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。

以上